

まちだ納税貯蓄組合連合会長賞

『税が助けてくれたこと』

町田市立真光寺中学校 3学年 佐藤 成真

僕の姉は三年前から難病を患っています。「多発性硬化症」という病気です。これは手足のしびれ、感覚障害、運動麻痺などの様々な症状の再発と寛解を繰り返す病気です。三年前、足のしびれで歩行困難になり緊急入院しました。この時姉は、急激に症状が悪化していたこともあり、僕は心配で仕方がありませんでした。二週間の治療とリハビリで退院することができましたが、そこから再発しないための治療が始まりました。その治療とは月に一回、自分でお腹に注射をすることです。この注射一本でなんと二十万円もするのです。高額な薬代を初めて聞いた時驚きました。しかし、「難病医療費助成制度」を利用し、自己負担額を減らしてもらっています。

この制度によって我が家は助けられています。

この「難病医療費助成制度」について調べてみると、難病法に基づき、患者さんの医療費負担の軽減を目的として、その治療にかかわる医療費の一部を助成する制度だそうです。助成対象になると自己負担の割合が下がり、患者が支払う上限額が定められます。長期治療が必要な場合も、一定の自己負担額で治療を続けることができます。姉の病気はこの助成制度を使うことができているのです。

でも感謝しています。しかし、姉の治療は今後何十年も続くそうです。なのでこの制度がいつまでも適用されてほしいと思うし、そもそもこの病気の治療法が早く見つかってほしいとも思いました。また、指定難病以外の患者の人たちはこの制度を利用できないので、その人たちのことも少しでも税金からの制度によって助けてあげてほしいとも思いました。

また、僕自身の医療費も税金によって補助されており、家計から出すお金が軽減されていることを最近知りました。そのことを知ったのは去年の十月です。僕はインフルエンザにかかりました。僕は病院に行きましたが、診察代とインフルエンザの検査代がたったの二百円で済み、薬代は無料でした。このときに初めて病院代が税金によって賄われていることを知ったのです。このように、普通であれば高い金額を払わなければならない病院代がたったの二百円で、なおかつ薬も無料で提供されることに驚いたし、この素晴らしい制度に感謝すべきだと思いました。

このように、税金は自分の身近なところに使われており、それが日々の生活や、健康に非常に役立っていることを知ることができました。この他にもあらゆるところに税金が使われているはずです。どのようなところに使われているかをよく知り、子供の時に助けてもらったことを忘れずに、大人になったらきちんと税金を支払う人になろうと強く思いました。